

病院薬学. 26, 612 - 624, 2000

調剤支援用シロップ剤データベースの作成とその試用

長谷川健一 (K.Hasegawa), 駒田富佐夫 (F.Komada), 齋藤侑也 (Y.Saitoh)

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1 城西大学薬学部医薬品情報学教室

調剤に際しシロップ剤の主として配合変化を簡単に検索することを目的にして、シロップ剤113銘柄に関するデータベースを Microsoft Access を用いて作成した。このデータベース(680kB)は、インタビューフォーム、添付文書、社内資料、文献から抽出した商品名、一般名、組成、添加剤、配合変化、薬用量など16項目のデータを搭載して検索でき、また成人薬用量から小児量を算出する機能を有している。またこれらのデータは、Microsoft Accessを有していない施設のためのデータとして作成したMicrosoft Excelの基本データ(226kB)を含めて906kB であり、フロッピーディスク1枚に収まる。この基本データは、Microsoft Excelのフィルター機能を利用する簡易型データベースとして使用でき、ファイル変換によりWindows CE、Macintosh 上でも利用できる。さらにこの基本データは、FileMaker Pro5への変換により、LANおよびインターネットを介して、多数の人がこのデータを利用可能である。本データベースを使用した結果、113銘柄中、1銘柄あたり配合不適が平均0.9件、配合注意が平均1.8件、副作用として喘息発作を誘発する可能性が報告されているパラオキシ安息香酸エステル類を添加剤として含むものが64銘柄あった。また、小児薬用量の未記載が26銘柄(約23%)認められた。さらに処方せん調査を行った結果、シロップ剤の処方率はA薬局で約11%、B薬局で約2%であり、それらのうちA薬局で約34%、B薬局で約82%が配合可能であった。また、小児科のシロップ剤処方に3剤以上の処方が63%であった。本データベースは処方作成支援および鑑査、調剤配合、患者指導時に有用なデータベースである。